林美脉子

エフエメラの夜陰

林美脉子

エフェメラの夜陰

書肆山田

エフェメラの夜陰＊著者林美脉子＊発行二〇一五年一月一五日初版第一刷＊発行者鈴木一民発行所書肆山田東京都豊島区南池袋二―八―五―三〇一電話〇三―三九八八―七四六七＊装幀亜令＊印刷精密印刷石塚印刷製本日進堂製本＊ISBN九七八―四―八七九九五―九〇九―六

目次——エフェメラの夜陰

I

エフェメラの夜陰　10
月虹　16
招きのリル　20
水葬の花　24
神韻・魂揺らし　28
鳥の聲　32

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

II
窖の舞 38
想牢夢 42
風の廃墟 46
秋の河口 48
ナソリ 52
雪昏 54
密告 56
陰刻のおんおんおん 60
死の罠 64

林美脉子

エフェメラの夜陰

書肆山田

目次——エフェメラの夜陰

I

エフェメラの夜陰　10
月虹　16
招きのリル　20
水葬の花　24
神韻・魂揺らし　28
鳥の聲　32

II
窖の舞 38
想牢夢 42
風の廃墟 46
秋の河口 48
ナソリ 52
雪昏 54
密告 56
陰刻のおんおんおん 60
死の罠 64

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

エフェメラの夜陰

I

エフェメラ*の夜陰

アララ鸚鵡が啼くとポロロ族は輪廻のひと巡りを終わらせる*

未明

静まり渡る病房の森に　消えていく生命(いのち)の熱量を密かにさぐ

る　物理の情をわたる自今の闇深く　冷たく密告されてくる裸形の死

の

ベッドを囲む深い昏森に　原始の陰獣が呻き　ポロロ族の顔は虚ろに振り向きねじれ嗤う　緩やかに無化されていく血脈のぬくもりの　死のまなざしの奥深く　大いなる物語の記述は是非もなく終焉して　あらゆる神話は解体され　抒情の線分は不毛の海にさらわれていった　から　無数の気根を闇に開いて　消されていく生存の証の　その中心にぽっかり口をあけるポロロ族の顔が歪

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c